

第2期

# 葉山の里 田代地区地域づくり計画



～ふるさと田代を愛し、交流の輪を大きく広げよう～

平成27年3月

田代地区地域づくり推進協議会

はじめに

“ふるさと田代を愛し、交流の輪を大きく広げよう”をスローガンに、第1期の田代地区地域づくり計画を平成21年度に行政と地域が一体となって作成いたしました。

佐藤洋樹市制が誕生し、公約どおり地域担当職員を配置して頂き、地域の各種団体で構成した「田代地区地域づくり推進協議会」を設置し、以来様々な事業を展開してまいりました。

寒河江市からの3年間の事業支援を受けながら、定着してきた秋の収穫感謝祭等では地区外より多数の来場があり、これまでにはない賑わいとなっております。農林産品の直売も実施し地域住民の経済的な潤いも出てきており、初期の地域づくり計画の成果を得られたのではないかと思います。

しかしながら依然として少子高齢化が進み、自然的な人口減少も嘗がないが若者の定着と交流人口のをより一層増加させることにより、地域の活性化を図ることが喫緊の課題である。更には、平成25年3月末日で田代小学校が閉校となり、地域の推進力が崩れて大きく空洞化が進み、今後の集落維持機能が停滞する状況下にあります。

当初の地域づくり計画では田代小学校の統廃合の問題が生じており、廃校の明言がなされておらず廃校舎の利活用は計画されませんでした。今回は地域の柱として活躍してきた田代小学校の廃校舎の利活用を今後の地域発展の土台とし、第2期地域づくり計画として前計画の未達成を含め策定したところであります。

先に、平成25年度総務省の「過疎集落等自立再生緊急対策事業」が採択となり、温泉基礎調査と廃校舎を利用した地場産物を使った田舎料理を提供するレストランを開設しました。レストラン営業は大変好評で、これまで5回ほど開催したが350余名の来客数で地区外との交流が図られ大変な賑わいとなり、田代地区の認知度が向上されました。また、温泉基礎調査では温泉が湧出されるとの結果が出ましたが、掘削費用が多額を要し地域独自の掘削は非常に困難のため、行政支援による温泉開発を地域住民皆望んでおり、実現に向けて行政にお願いするところであります。

この度の「過疎集落等自立再生緊急対策事業」をきっかけに、レストラン常時開催や料理内容等も検討し交流人口を拡大させ、地域活性化を図りたいと望んでおります。行政主導で温泉開発事業を早急に進めていただき、若者からお年寄りまで田代に住んでいて良かった、また、田代に住んでみたいという声が聞かれる地域に発展することを望むところです。

田代地域は葉山の中腹に位置し、総面積の90%以上が山林・原野で占められており、おいしい湧水もあり自然豊かな中山間地である。山林を生かした特産林産物(きのこ・山菜等)の開発や、森林オーナー制度の普及拡大を地域住民の創意工夫により地域特産品を発掘し、地域経済の活性化を促し豊かで安心した暮らしが図られる地域を目指したいところであります。

平成10年から続いている田代地区を活動拠点とした葉山村塾では、早稲田大学との交流活動として毎年農山村体験学習で学生を地区内の農家で受け入れをしているが、ここに来て何回も田代地区を訪れるリピーターが増えてきています。また、田代に定住したいという学生もいることから、地域の受け入れ体制整備が急務となってきています。

若い人のエネルギーを享受し、今後益々田舎暮らしが増え田代地区の定住人口が増加することを期待するところであります。

田代地区地域づくり推進協議会

田代地区自治会

会長 佐藤昭右衛門

# 1.計画見直しの趣旨

平成21年度策定されました、「田代地区地域づくり計画」は平成24年度をもちまして当初の実施計画を終了しました。その間、地区では様々な事業が行われ今までに無かった取り組みがなされ、多くの方に田代に来ていただくことができたように思われます。

当初は、田代小学校の統廃合問題もあり廃校舎の利活用は計画に入れず、田代の認知度を高めることを中心に計画が立案されました。そうした中平成24年度をもって田代小学校も閉校となり、新たな地域づくり計画の策定が必要となり計画の見直し作業を進めてまいりました。

また、平成25年度には総務省事業である「過疎集落等自立再生対策事業」に応募し、交付決定を受け「田代地区の地域づくり事業」を実施いたしました。これは、先に作られた「田代地区地域づくり計画」でも計画された温泉開発と、閉校した校舎の利活用を行う上で取り組みやすい、給食室と食堂を使ったレストラン事業に絞り取り組みました。

そうした活動として、「田代地区地域づくり計画」を新たな方向性に向ける必要性を協議会として認識してまいりました。

この度の計画は、10年後も20年後も田代が田代で有り続けるための礎になる事業を実施し、持続可能な生活を送るために「第2期 田代地区地域づくり計画」を策定したものです。



## 2.地域づくりの目標

協議会では、これまで実施してきた事業の再考と、山形県地域づくりアドバイザーを講師に迎えた地域づくり勉強会のまとめを基に、協議会メンバー団体総意として二つの事業に特化して地域づくり事業を進めてまいります。

田代地区に住む皆が田代に誇りと愛着を持ち、皆で助け合いながら住民同士の交流を深め、これまで以上に交流人口が増える田代にするために地域づくりの目標を

**10年後も20年後も田代のままであり続けよう**

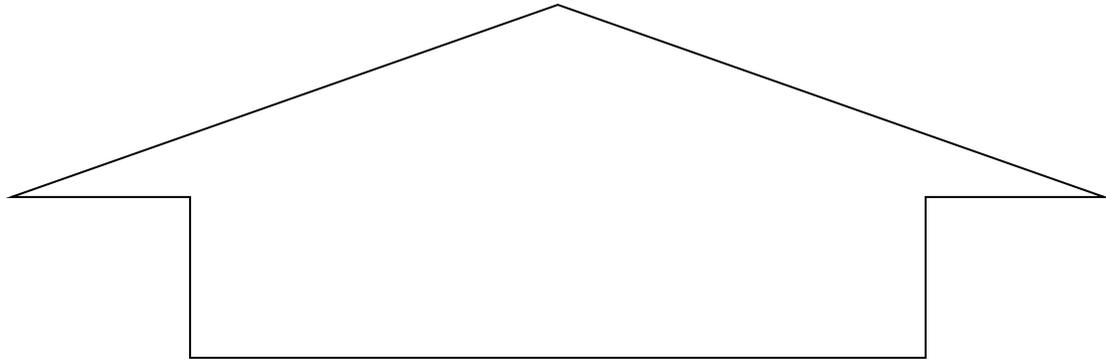
とします。



### 3.目標を実現するための取り組み

地域づくり目標の実現に向けて、交流活動・生産活動に特化し具体的な取り組みを行います。

10年後も20年後も田代で有り続けよう



#### ①交流拡大

- ・温泉開発と廃校利用を促進し、交流人口拡大を増やす。
- ・地区民全体が、住んでいてよかったと思える取り組み。

#### ②生産振興

- ・地域の農林産品を利用し、六次産業化を図る
- ・田代でしか味わえないブランド商品開発。



## (1) 交流の拡大

### ① 現状と課題

当初の地域づくり事業では交流拡大のため、下記の様々な取り組みを行ってきました。

◇案内看板の設置    ◇無人販売所案内板設置    ◇ホームページの立ち上げ

◇収穫感謝祭の開催    ◇グリーンツーリズム(早稲田大学の受入)等

過去数年事業を実施してまいりましたが、地区民の当初のような盛り上がりが見えなくなっているように感じる。ただ、無人販売所や収穫感謝祭については固定客も増え、一部ではあるが安定したと考えられる。

また、平成25年度に実施した温泉基礎調査や廃校舎を利用したレストラン事業「たしろ亭」については、今後の田代地区の生き残りをかけた事業にふさわしく考え、地域全体の後押しを受け発展させなければならないと考えます。

まず温泉開発については、地区民全体で期待とする一番に上がり、入浴施設をはじめ、廃校舎への引湯や廃熱利用の農業施設、消雪利用など様々な可能性があり、まさに田代活性化の起爆剤となります。

温泉と同様に、廃校舎の利活用についても地区民の期待する事業となっており、合宿施設として利用することで多くの利用者を確保でき、交流人口の拡大が見込めます。また、校舎内には既に好評を博している「たしろ亭」がオープンしており、年4回の営業だけでなく常時利用できる飲食店として発展することができます。

本年度は、試験的ではあるが早稲田大学の受け入れを廃校舎で行い、宿泊や食事の提供を実施しました。利用者からの意見をまとめると、防虫対策や入浴施設を完備すれば大きな改修をしなくてもすぐに使用できる状態であるようでした。

廃校舎が田代地区のコミュニティーの核となり、憩いを作り出す空間として必要な場所にすることで、地区民が気軽に集まれてコミュニケーションでき、来訪者との交流もスムーズにできるスペースを確保することで、田代に元気を取り戻し10年後も20年後も田代として有り続けることが期待できます。

### ② 向かうべき姿

これまで培ってきた歴史と伝統と新しい発想を受け入れることで、変化に順応しこれまで以上交流拡大に取り組むことで、多くの「たしろのファン」をつくり常に地区民との交流ができ、居心地のよい地域づくりを目指します。

◇「たしろに来てよかった」、居心地がよい交流    ◇「住んでいて良かった」、自慢できる地域づくり

### ③ 具体的に取り組むこと

#### 【地域で取り組むこと】

- ・温泉や合宿所等の管理組織の立ち上げ
- ・たしろ亭の運営の充実
- ・直売所の開設(たしろ亭の連携)

#### 【行政に依頼すること】

- ・温泉の掘削、関連施設建設等
- ・廃校舎の改装
- ・各運営費の予算化

## (2) 生産活動

### ① 現状と課題

当初の地域づくり事業では下記の事業を実施いたしました。

◇遊休農地等を活用した特産物(根曲がり竹・栗)の植栽

事業としては単年度で完了しましたが、収穫するまでにはもう少し時間が必要なため、特産物としてはまだ形になっておりません。ただ、収穫するだけでは不十分でしっかりと収入につなげる必要があります。収穫したものを流通するための方法を学習し、また地産地消で「たしろ亭」や合宿所での利用したり、たしろブランドでの商品化等など六次産業化を推進し、田代にあるものでしっかりと収入につながれるよう行動する必要があります。

### ② 向かうべき姿

これまで苦勞して守ってきた地域資源を朽ち果てさせるのではなく、新しい付加価値を付けて特産品として売り出すことによって農業経営というよりも地域産業の創出と安定雇用に発展することを目指します。

◇地域の素材を生かした特産品の開発 ◇産業化によるやりがいと雇用の確保

### ③ 具体的な取り組み

【地域で行うこと】

- ・六次産業化に向けた生産組合等の立ち上げ
- ・加工施設設置場所の検討

【行政に依頼すること】

- ・必要な補助金等の助成
- ・運営に関する指導

## 4. 計画の期間

平成27年度から平成29年度までの概3年間

## 5. 計画の実現に向けて

この計画の実現には、田代地区の住民一人一人の理解と協力は不可欠であるとともに、行政の支援が必要です。

この度の掲げた目標の達成に向けて、地域と行政の役割分担を明確化した実施計画を立て地域全体で行動します。

## 6. 実施計画

| 分類   | 提案内容           | 実施する時期 |      |        | 役割分担 |      |    |
|------|----------------|--------|------|--------|------|------|----|
|      |                | 今すぐ    | 2～3年 | 時間をかけて | 地域   | 協力して | 行政 |
| 交流活動 | 温泉開発           | ○      | ○    | ○      | ○    | ○    | ○  |
|      | 廃校舎の利活用        | ○      | ○    |        | ○    | ○    | ○  |
|      | 管理組織の立上        | ○      |      |        | ○    |      |    |
|      | たしろ亭の運営充実      | ○      |      |        | ○    |      |    |
| 生産活動 | 六次産業化に向けた組織の立上 | ○      | ○    |        | ○    | ○    |    |
|      | 加工施設設置場所の検討    | ○      | ○    |        | ○    | ○    |    |
|      | 販路の開拓          | ○      | ○    |        | ○    | ○    |    |